

# 湖畔

## 北海道立大沼学園

〒041-1355

北海道亀田郡七飯町字西大沼8番地

TEL 0138-67-2014

FAX 0138-67-2032

[hofuku.onumagakuen1@pref.hokkaido.lg.jp](mailto:hofuku.onumagakuen1@pref.hokkaido.lg.jp)

### 夏への扉

園長 三浦 辰也

1月の末だというのに外は雨が降り続いています。園長室のホワイトボードに2月の予定を書き込みました。そこには「卒業生激励の集い」とあります。「函館心の里親会」と「北海道新聞社」の主催による招待行事です。この春に管内の児童福祉施設で生活し、中学校課程を修了する卒業生達を函館国際ホテルに招いてくださり豪華な食事を頂くのです。祝宴の中、当学園の園生は分校教員の指導の下に準備した「余興」を披露します。今年はギター片手に歌を披露することとなります。私は、この子どもたちの緊張した顔と少しか誇らしい姿を5回見えています。この招待行事を皮切りに、流れるように3月に入り公立高校の受験、発表、そして学園で卒業式へと向かうのです。それは、彼らが北海道立大沼学園を離れることを意味します。今年は4名が高校受験に臨み、明日への扉をこじ開けようとしています。残念ながらこの集いは新型コロナウイルス感染予防の一環で中止となりました。

毎年2月に大沼湖畔で開催される「函館・大沼雪と氷の祭典」では、例年、各寮は中雪像（縦270cm 横270cm）、小学生は小雪像（縦180cm 横180cm）を制作します。制作完了後は、近隣の入浴施設に慰労目的で向かうことを恒例としています。3年前、私の車に同乗したのは3人。来月が受験だというのに、既に高校合格を果たし、学園を去ることに何の疑いも持たず意気揚々と学園生活を振り返ります。「学園に来なかったら今の俺はない」「そうだ、そうだ」「俺もだ！」外は極寒。冷氣漂う車内は熱を帯びた白い吐息で側面の窓ガラスが曇ります。「園長先生。高校の卒業証書をもって来ますから、いてくださいね」「俺も持ってきます」「俺もだ！」とひとりが夢を語ると「俺も」と続きます。

2015年6月に私が着任して76名の子どもたちと出会いました。学園から高校進学をした園生は31名(児童養護施設などへ措置変更後、進学した者を除く)。そのうち、把握できるだけで卒業した者、或いは高校生活を継続している者は27名ですが、何人が高校卒業証書を受け取ることができるのでしょうか。学園を離れる園生は、そのうれしさや明日からの生活に期待を持つことと同じくらいに、いや、それ以上に、心配と不安で仕方がないのです。彼ら3人も高校入学を果たしました。子どもたちが自立するには、最低限、高校卒業資格と車の運転免許は必要です。そんなものが無くて生きてきたと自負する方もおられるのですが、しかし、子どもの現実には「生きにくい社会」なのです。

子どもたちに励ましのメッセージを頂くことが常となりました。ひとつ高いところから「何か困ったことがあったら相談しなさい」と。その通りなのですが、私には何度も絶句した体験があります。児童相談所に勤務していた頃、里親宅に委託された中学3年生の娘がいました。そこでの生活継続が困難で、次の生活場所を探すのに苦慮しました。幸いに別の里親が手を挙げてくださり、やっとの思いで中学の卒業と思っていた矢先に彼女は大きな問題を抱え込んでしまいました。孤立無援となった彼女は、とある宅で生活をしなければならなくなり、そこから脱するためにアパートを借りたいとの相談を受けたのです。「先生は担当でしょ。保証人になって」と。これを断ると烈火の如くに彼女は言い放ちました。「困ったときには相談しろと言ったのは先生じゃないか！口先だけだ。もういい！」以来、彼女とは音信不通になってしまいました。

その後、国から通知等がなされ、支援法が整備されはしたのですが、当時の彼女の姿が思いだされ「大人に、何かあったら相談してね」などと聞き心地の良い言葉を軽々と口にすることはできなくなってしまったのです。だからこそ、今ここでの生活や関係作りの経験が大切なんだと思うようになったのです。

1956年、SF作家ロバート・A・ハインラインは1970年の未来では「冷凍睡眠」が実用化され、人々を未来に誘ってくれる世界を描きました。「夏への扉」発明家のダンは人生に絶望します。絶頂期と思われた矢先に最愛の恋人と親友に裏切られます。彼には戦友がいました。愛猫ピートです。孤高に生きる猫はいつの時代でも私たちの大切な親友です。外は冬景色。ピートはダンに家中の扉を開けてくれとせがむのです。扉のどれかが必ず光り輝く「夏」に通じていることを信じて疑わずに。心には冬景色。子どもたちが開く「扉」の向こうにはどのような世界が待ち受けているのでしょうか。私のお役目は本号で終了です。重たい扉でした。

# 鈴木直道知事 視察

自立支援課長 阿波加 忠純

「行くぞ!」の声とともにノックするのは野球部の佐藤勇介監督。「来い!」と応じてK君(小5)に捕球され、少し離れた位置の藤田玲先生のグラブへ見事なスローイング。視察記念としてのボールは、S君(小5)、R君(小3)、R君(中2)から直接知事の手へ贈られました。2月18日に鈴木直道知事の視察が行われた際の1分間ほどのメインイベントです。

視察は30分の極めて短い時間。資料をもとに案内説明するだけでは平凡だと、園長と職員がインパクトのある内容を企画したのです。

知事の到着の後、体育館へ御案内し、法被姿の子どもたちによる和太鼓演奏、昨年の学園祭で披露し好評だった「ヌプリ・トー」(佐藤三昭氏作曲・提供)で歓迎。その後の記念ボール贈呈を経て、体育館内に制作設置したパネルを知事に眺めてもらいながら、子どもたちの生活の四季を三浦辰也園長から説明。職員室に場を移し、知事から職員に対して訓示。日頃の困難を伴う支援に対する謝意と激励がありました。視察の最後は芝蘭寮へ案内。夫婦職員の斉藤利昭・淳子寮長寮母から子どもたちの生活の様子や支援の内容を説明。最後の最後は、知事から職員家族との記念撮影のサプライズ。

到着が若干早まったことはあるものの、ほぼ予定した時間どおりの終了。知事は次の用務に向かうため学園を離れました。見送った後、園長以下準備にあたった職員たちは、すべての企画がうまく運んだこと、子どもたちが協力してくれたことに安堵と感謝を覚え、知事の視察が無事終了しました。

去年は副知事が来てくれましたが、今年は知事が大沼学園に来てくれました。

ぼくは、知事の前でノックをうけました。きんちょうしましたが、終わってみればとても自まんなる体験でした。知事が来てくれて、うれしかったです。ありがとうございました。

小5・Kくん





# 学園祭

福祉指導員 平田 俊一

「笑顔—みんな輝く光の中で—」今年度の学園祭のテーマです。

今年は11月9日(土)に開催されました。関係機関の方々、ご家族の皆様、地域の皆様まで幅広くご観覧いただき、また遠方からも足を運んでくださった方も多く、より多くの方々に、この大沼学園という地で光り輝く姿を見ていただけたかと思います。本当にありがとうございました。

実は、前日ギリギリまで上手くいかないことも多く、指導されてはふて腐れ、喧嘩や言い合いなども多く、「当日を無事に迎えることができるのか」と不安になるほどでしたが、私自身もご観覧いただきました皆様と同じように驚愕させられ、感動の涙を流してしまうほどに子どもたちの光り輝く姿を目に焼き付けることができ、大変嬉しく思いました。

子どもたちと職員が一体となった合唱から始まり、中1生の大道芸やマジック、中2生のダンスパフォーマンス、小学生のクイズ大会、中3生のバンド演奏と会場を沸かす、飽きさせることのない素晴らしいパフォーマンスであったと感じております。なんとと言っても、和太鼓演奏は圧巻でしたね。各々が故郷を想い奏でる「郷の音」、またこの地大沼と聳え立つ駒ヶ岳を連想させる「ヌプリ・トー」。まるで「僕たちはここにいるよ。ここに立って必死に今を生きているんだ。」と太鼓の音が響き渡り、耳から、また地面を揺るがしながら足から、全身へとその熱い気持ち、メッセージ性が伝わっていくのを私は感じました。

過去に私は、ある子どもの今後を巡る話し合いをした際に、とある方から「彼は自閉症なんだ。」とまるで切り捨てたような言葉をかけられました。だからなんなのでしょう。自閉症だろうが、何だろうがあくまで彼は彼。その子はその子なのです。商品、モノではないのです。そこに立って今も将来に不安を抱えて生きている一人の人間なのです。病名、特性を商品ラベルのように貼り付けたようなその言葉を私は許せませんでした。物事を点と点で判断するのではなく、生活の場を通して、点を結んで線となった、その子どもの声、職員の声にも耳を傾けていただきたい。

学園祭を含め、様々な場面で光り輝く姿だけではなく、各寮で切磋琢磨する姿、泥の中を這うように必死にもがきながら闘う姿。今回は、そういった日々の中で生きてきた証が積み重なった素晴らしい学園祭だったなと感じた新任1年目の私でした。子どもたちへ、本当にお疲れ様でした。

僕は2回目の学園祭という事もあって、前回よりも良い学園祭にしようと思い、学園祭練習を頑張りました。今回の学園祭は学級の出し物でダンスとオタ芸をしました。去年とは全く違う事だったので、無事完成できるか不安でしたが、何とか本番までに完成させる事ができました。学園の出し物では学園オリジナル曲ヌプリ・トーを演奏しました。この練習は順調にいき、本番演奏する事ができました。来年は中学3年生になり、きっと最後の学園祭になると思うので、来年は今ままで一番良い学園祭にしたいと思います。

中2・Tくん



# 大沼小学校公演

児童自立支援専門員 関口 聖人

来年度より大沼小学校は地域の2つの小学校と1つの中学校と統合され義務教育学校の大沼岳陽学校として生まれ変わります。今年度が最後の大沼小学校公演となりました。

今年度は残念ながら子どもの人数が足りず劇クラブの公演はありませんでした。そのため太鼓クラブのみの発表となります。大沼保育園の年長児と職員の方々の観覧と、今回も大沼小学校の呼びかけにより、保護者の方々、そして地域関係者の皆様にも会場まで足を運んでいただきました。演目の直前には毎年恒例になった大沼学園の若手職員による大沼学園の紹介。今年度はスライドショーを用いて紹介を行いました。

演目は学園祭と同様の「郷の音」と「ヌプリ・トー～われら此処の子～」です。1曲目は家を離れ学園で暮らす子ども達が自らのふるさとを思う曲である「郷の音」。2曲目は子ども達の第2のふるさとであるここ大沼をイメージとして作曲家の佐藤三昭先生から提供していただいた曲である「ヌプリ・トー～われら此処の子～」を群読も併せて披露しました。郷の音の楽しい祭り囃子のメロディ、迫力ある群読からのヌプリ・トー。練習で何度も聴いた曲ではありますが、やはり本番の演奏は何度聞いても感動してしまいます。その後は去年から引き続き和太鼓体験。若手職員の進行で行いました。ラストは恒例の「まつり」。昨年度の“大沼の三郎”は声量に難があったため今年度は三郎を2人に増やしました。そのおかげか今年は声量にも問題なく大沼小学校公演を締めくくることができました。

子ども達が慣れた学園を離れて、大沼小学校へ出向いて発表させていただくことは貴重な経験となります。普段とは見てくださる方々も変わり、普段とは異なった環境で与えられた仕事を最後まで取り組むことが出来るか、どれだけ本番に強い彼らといえど相当なプレッシャーのはずです。またそのプレッシャーの中で最後まで演奏を終えた後の皆様からの拍手がきっと彼らをまた一回り成長させてくれています。今年度で大沼小学校公演は最後となりましたが、来年度また大沼岳陽学校でこのような機会と新たな取り組みが継続できることを願いつつ、改めて大沼小学校、大沼保育園の皆さま、保護者・地域関係者の方々に心から感謝申し上げます。

自分は大沼学園の太鼓クラブが好きではありませんでした。太鼓クラブになるとやりたくない、「何のために？」なんか思いながら嫌々やっていました。大沼小学校公演があると聞かされ、「嫌だな」と思っていました。ですが、大沼小学校公演があと2日、1日と近づくとつれ、もうすぐだから頑張ろうと思えるようになりました。そして、大沼小学校公演の日になりました。本番では、自分らしさを出し大沼小学校の子たちに何か伝わればいいなと思いながら打ちました。そして、とても良い思い出となりました。

中2・Aくん





## 招待行事～ソロプチミスト Xmas 会～

児童自立支援専門員 高橋 和輝

12月7日に国際ソロプチミスト函館様主催のクリスマス会が学園で行われました。開会式にあたって、同行された函館カトリック宮町町教会の神父様によるクリスマスについてのお話がありました。クリスマスについて、普段聞くことができない貴重なお話に、子ども達は真剣な表情で聞いていました。

ヒップホップダンスでは、三代目 JsoulBrothers の「HAPPY」のリズムに合わせて踊りました。ダンスが初体験の子どもが多く、最初は慣れないステップに戸惑ったり、恥ずかしがったりもしましたが、ダンススクール教室の先生による丁寧なレクチャーのおかげで徐々に慣れていきました。時間が経つにつれ、どんどん踊れるようになっていき、最後にはノリノリで息の合ったダンスが踊れるくらいになっていました。

ビンゴ大会では豪華なお菓子や飲み物、すぐに使える日用品まで、様々な種類の景品が用意されていました。子ども達は早く当たらないか、そわそわしながらも、和気あいあいとした雰囲気、ビンゴになったときは、とても喜んでいました。とても楽しい時間だったこともあり、あっという間に閉会式となってしまいました。クリスマスケーキとスポーツタオルのプレゼントをいただけるなど、最後まで子ども達のことを考えたプログラムでした。

子ども達から、お礼として学園祭で披露した「この地球のどこかで」を合唱しました。練習時間の少ない中、子ども達は感謝の気持ちをいっぱい込めて、ソロプチミストの方々に届けることができ、とても感動しました。

ソロプチミストの方々が来てクリスマス会をしました。とっても楽しかったです。イエス・キリストの誕生日を祝う日で本をききょうしてもらいました。その後、ダンスをおどりました。とっても楽しかったです。今もリズムを覚えています。次に、ビンゴ大会をしました。少し時間がかかり、穴があいているのに気づかず、気づくのに数分かかり少しはずかしかったです。とても良い思い出になりました。

中2・Rくん



## もちつき

福祉指導員 伊藤 凌

今年のもちつきは、あんこ、きなこ、お雑煮の3種類を作りました。臼も杵も初めて見る子どももたくさんおり、もちをつくことに苦労していました。しかし、子ども同士が協力して一つのものを作り上げていく過程は、集団の力をつけるにはうってつけで、実際にもちつきが終わった後にはみな笑顔でおいしそうに、楽しそうに食事をしていました。

もちつきは日本の伝統行事であり、子ども達が大人になったときに、経験を思い出してもちつきをやっていければと思っています。

杵が2本破損したため、もちつきが終わった後に1年目の職員と一緒に鉋をかけました。この杵と共に、大沼学園の歴史も脈々と続いて行ってほしいと思います。

もちつきでみんな、もちをついていました。そして、もち米からむして、もちをついて、もちを作り、食べたのですが、量が多かったです。ただ、食べた時にきなこの味がしておいしかったです。もちは寮ごとでつきました。なので、おいしく食べてほしい、おいしく食べたいという気持ちがつまっている事をいのりたいです。

中3・Kくん



## 百人一首大会

福祉指導員 木村 正和

新年を迎え、初めてのイベントとして百人一首大会が開催されました。今年初めて百人一首に挑戦するため、札を覚えるところから始めた子もいましたが、限られた時間を使って練習に励んでいました。

個人戦では初戦で敗退してしまっても、寮の仲間の練習相手となって自分の試合がないときも練習し、助け合う姿が見られました。決勝戦はすべての子たちが静かに見守る中で行われ白熱した試合が繰り広げられました。

団体戦では人数の関係で昨年と違い2対2の試合となりました。不利な状況でも諦めず仲間と励まし合いチームの勝利を目指して奮闘していました。

今回の行事では連戦により疲弊する中でも最後まで集中して取り組む姿、敗北の悔しさから涙を流す姿を見ることができました。今後の人生の中での困難を乗り越えるための力になればと思いました。

今回の百人一首大会を通して、僕は「努力」という事を覚えました。毎日、練習を取り組んでいって、始めた頃はなんとなく出来ていた感じだったんですけど、だんだんなんとなくではなくなっていって、そのためには、毎日の努力が必要なんだなと思いました。その練習した結果が今回の百人一首大会の優勝をとれたのだと思いました。

中2・Tくん



## 雪像制作～函館大沼雪と氷の祭典～

専門主任 斉藤 孝宏

令和元年度の雪と氷の祭典は、例年になく雪が少ない状態でのスタートとなりました。芝蘭寮は、全長5・5メートルに及ぶ大作、「トリケラトプス」を制作しました。蛍雪寮は、まるで今にも動き出しそうで、食べられそうになっている様子を表現した「キングコング」を制作しました。晩翠寮は、ファンタジーの世界に紛れ込んだような、「オラフとスヴェン」を制作しました。小学生は、野球のグローブ型のイスと、ピカチュウを制作しました。

雪像制作をしたことがない職員が多い中、指先はかじかみ、吹きさらしの中の寒さに凍え、時に鼻水を垂らしながら大人も子どもも一緒になって制作した時間は、とても濃密だったように思います。完成度を上げるために、毎年実施している豚汁も取りやめ、全てを見るものを感動させ、大沼学園の作業の細かさを実感してもらうために全力で取り組んだこと、それが彼らが大人になったときにふとした瞬間によぎり、自らの家庭で家族と何かを作り上げていくきっかけになれば、そう思いました。

雪像作りをしたことへの感想は個人的には、もっとがんばれたならという想いでいっぱいです。ぼくは、雪像の顔半分の削りなどの大役をまかせてもらい初めは、きんちょうと言う感じでもなく、ただ自分がうまくできるのかと言う思いでやっていました。ですが段々慣れていくと意外にできたんですが削りすぎたところもあって難しいな～と思いました。

中2・Kくん





## スキー授業

福祉専門員 佐藤 勇介

今年は例年になく雪の少ない冬となりました。12月下旬でもスキー場に雪がなく開催が危ぶまれていました。

今年は、1月24日、30日、2月14日の計3回の予定を立て、子ども達もとても楽しみにしている行事であるため、年明け頃から「今年スキーできますよね？」とソワソワしていた子どもも多く、担当者としても悩みの種でしたが、なんとか無事に開催することができました。あいにくの天候不順のため1月30日のグリーンピア大沼でのスキー学習は中止となってしまいましたが、1月24日のグリーンピア大沼、2月14日の七飯スノーパークは天候にも恵まれ、怪我なく終えることができました。

子どもは元より、今年度新しく着任した職員もスキー未経験者が多く、スキー学習の前に未経験者へ向けてベテラン職員によるスキー研修も行われました。子どもに負けじと子ども以上に一生懸命練習に取り組んでいる職員もおりました。その甲斐もあってか、子ども、職員ともにシーズンが終わる頃には立派に滑れるようになりました。

前述の職員同様、今年度入所してきた児童の中にはスキー未経験の子どもも数名おり、最初はスキーを履くことすらできず、滑ることを怖がっていた子どもも回を重ねるごとにみるみる上達し一人でリフトに乗り降りてくることができるようになりました。また、去年からいる子どももさらに上達し、去年なら行けなかったような急斜面を楽しそうに滑走している姿も見られました。

降雪が少ないためゲレンデの状況も芳しくないなか、怪我がなく、無事に終えることができたのは、分校、学園職員の指導は元より、子ども達自身のスキー学習に対する取り組み姿勢によるものだと感じます。好き勝手滑ることなく、職員の指導の下、しっかりと滑ることができていました。

行事を一つ終えるごとに目に見えて成長していく児童の姿に頼もしさを感じました。これから春に向け新しい場所でスタートを切る子どももいるかと思いますが、子ども達にとってこのスキー学習が良い思い出として残ってくれば幸いです。

今年は、2回スキー授業がありました。本当は3回でしたが、雪不足のため1回が中止になってしまいました。スキー授業のため、冬休み中にスキーの練習をして、すごく楽しみにしていたので、3回できなくてとても残念でした。来年は、たくさん滑りたいです。

中2・Rくん



## 中学3年生の声 ～大沼学園を振り返って～

<芝蘭寮 中3・Kくん>

この学園に2年半いた中での一番の思い出は、マラソン大会での優勝と修学旅行です。マラソン大会では毎日毎日練習した成果が大会で初めて発揮できたのがすごく印象に残っています。修学旅行では、みんなでラフティングやクラブトをやったり、ルスツの絶叫マシンなどに乗ってみんなで楽しんだのが印象的に残っています。この学園に来て学んだことはたくさんあります。礼儀やマナーをきちんと守るというのを学びました。これは、学園に来た時に寮長先生から言われたことでした。ほかにはやるべき事を一生懸命やる事でした。これはマラソン大会に向けての練習などで、良い成績を残すために一生懸命練習したり、毎日の勉強やクラブや生活などで一生懸命物事に取り組んだりして、身についた事でした。ほかにも色々ありますがそれらが全部身につけられたのは、学園や分校の先生たちのおかげだと自分は思っています。そういう事には感謝をして残り少ない学園生活にしていきたいと思います。これから卒園に向けて、自分は次の人たちに教えられたい事はすべて教えて、次の人たちに引きつぐようにしたいです。一日一日を大切にしたいので周りの人などに接していきたいです。残りは悔いの残らない学園生活にしていきたいです。



<晩翠寮 中3・Sくん>

僕はこの大沼学園に来て1年7ヶ月経ちました。僕はこの学園に入ったばかりの4ヶ月間ぐらいまでは決められた仕事などはあまりやらずに皆が仕事をしている間、マンガを読んだり布団を引き寝たりする事もありました。そしてある時に理科室から十勝石という石を盗んだ人がいました。そして僕はその人に濡れ衣を着せられました。そして、学校でも犯人扱いをされ先生方からもしつこく言われ何の為に生まれてきたのかわからなくなり、人が嫌いになりました。それから少しイライラすると物に当たるようになってしまいましたが、それでも盗んでいないと信じてくれた人は何人かいました。その人達をガッカリさせたくないし、犯人扱いした人達を見返すという思いから仕事などをやる姿勢を改めました。最初は全く仕事をやっていなかったので失敗ばかりしていました。その度に怒られましたが、いつもなら投げ出したが自分の間違いを素直に認め指摘された所を直すように努力していきました。すると少しずつですが、人に信頼されるようになりました。それからは毎日継続させていきました。話は変わり野球大会です。北海道・東北野球大会では主将をやりました。1回戦目は勝ちましたが、2回戦目は負けてしまいました。しかし打率7割の出塁率10割と言う好成績でした。来年の野球部には、全国大会に行きたいです。そして、学園祭では、フレディーマーキュリー役としてバンドでボーカルをやりました。バンドでしか味わえない生徒と先生の時間。それぞれの気持ちが一つになればバンドの音楽は奏でられます。終わったあとの達成感がとても気持ち良かったです。

最後に僕は学園に来て本当に良かったと思っています。ここで人は変われるという事が分かったからです。その事を教えてくれた先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。



<蛭雪寮 中3・Kくん>

僕の大沼学園での生活は短いのですが、充実した日々です。この度、中学校を卒業し、来年度から実科生として学園で生活します。僕が入園した当初は動作がゆっくりで、よく注意されました。今でも注意はされますが、自分としては早く動けるようになりました。実科生としての僕の目標は、今より早く動く事です。早く動けると掃除に生かせると思うので、卒園後の高校のクリーニング科の練習になります。僕はこの学園で色々な経験をしています。きっとこの経験は生活に役立つと思うので、この学園の生活を頑張りたいです。





<晩翠寮 中3・Kくん>

僕は、大沼学園で生活している中で、色々な思い出があります。いっぱいありすぎて困るくらいあります。その中ですごい良い思い出として残っているのが、東北・北海道地区野球大会と運動会です。

東北・北海道地区野球大会は今年度、宮城県でおこなわれました。僕は大沼学園に来る前に中学校で野球部に入っていました。前の学校でやっていた理由は、友達に誘われたからでした。ここでは最初やる気はなかったですが、やっていくうちに野球がすごく好きになり、今ではこれからも野球をやりたいと思うようになりました。練習をしていくうちに、最初は初心者だった人達もすごくうまくなりました。でも大会に行く前日になると、すごく緊張しました。大会当日は、ピッチャーで試合にでてマウンドに立った時、足がすごいふるえて、キャッチャーも遠くに感じました。でも、試合が進んでいくうちに緊張が消え、「楽しい」「もっと投げたい」といった気持ちがでてきました。1回戦は余裕の20対0で勝ちました。2回戦目は、去年も負けている所と勝負でした。ここに勝てば、全国に勝てると思いながら試合をしました。5回までギリギリの勝負が続きました。でもそこで一気に7点をとられ負けました。すごく悔しかったですが、良い思い出になりました。

運動会もすごく良い思い出だった。僕は紅組でした。小学校、中学校どちらも、白組にしかなかった事がなかったので少しうれしかった。僕が一番楽しみだった競技は、リレーです。ここは、赤白だけではなく、職員も入ります。職員チームには負けたけど、白組には勝ちました。それもあってか、総合点数でも勝ちました。すごく嬉しかった。皆で協力して勝ち取った勝利だと思います。

思い出はこれ以上にいっぱいあります。大沼学園はただ怖い所だけではなく、いっぱい良い思い出を作れる所でもあります。僕も大沼学園でいっぱい良い思い出を作れました。



<晩翠寮 中3・Sくん>

僕は平成31年12月5日に大沼学園に来ました。来る前は、厳しい場所というイメージがあり、大沼学園に行きたくありませんでした。でも、先生も生徒も優しく声をかけてくれたので、とても安心して良かったと思いました。そんな僕が暮らす寮は蛍雪でした。寮長・寮母先生は眞中先生で、毎日わからないことや困ったことがあるとすぐに助けてくれました。蛍雪寮での一番の思い出は、雪像作りです。雪像は、「きかんしゃトーマス」をつくりました。同じ寮の先生、生徒と心を一つに一生懸命つくりました。良い作品ができたので良かったです。3月に寮長・寮母先生が違う所に行くことになり、晩翠寮に行きました。そして4月からは、夫婦寮から交替寮になりました。交替寮になってからは、とても交替寮の先生方に迷惑をかけてしまいました。反抗したり、暴言をはいたり、無視をしたり…。本当に「ごめんなさい」という気持ちでいっぱいです。でも、その分楽しいことはいっぱいありました。ありすぎて、全部出すと、きりがないので二つだけ紹介します。



一つ目は、大沼地区野球大会です。中学校生活最後の大会だし、キャプテンもまかされていたからすごく印象にのこっています。開会式では、選手宣誓をし、すごく緊張をしました。1回戦目で負けてしまいましたが、4月から休みの日も毎日練習し頑張ってきたことを出し切れました。すごく楽しかったし、すごく良い思い出になりました。

二つ目は、学園祭です。僕たち3年生は、バンドでクイーンの曲を演奏しました。楽器は、苦手でしたが先生に教えてもらいながらベースを練習しました。簡単なコードでしたが、自分の予想より上手に出来たので、良かったし、見に来てくれたお母さんにほめてもらえたので嬉しかったです。

大沼学園での生活は、楽しいことも苦しいこともいっぱいありましたが、今ではとっても良い思い出になりました。でも今でも、自分の課題はいっぱい残っています。大沼学園の生活で学んだことをいかしながら、今後も生活したいです。

\*児童の作文は、原文のまま掲載しています

**ご寄附食品等  
皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。**

(令和元年11月1日～令和2年2月)

七飯大沼国際観光コンベンション協会 様 (七飯町) 澄 マサノ 様 (函館市)  
佐藤 隆三 様 (七飯町) 村上 貴志 様 (函館市)  
コココーラ 様 (七飯町) セイコーマート 様 (札幌市) 風間 麗子 様 (兵庫県)

## 編集後記

平成から令和へと元号が変わり、大沼学園でも交替寮が開設し大きく変化があった今年度、4名の卒園生が旅立ちの春を迎えようとしています。

卒業生4名のうち3名は今年度から開設された交替寮の寮生です。2寮の児童が1寮に集まり、新しく開設された交替寮の中で寮を作り上げてきた1年。上手くいかない事も多くありましたが、職員と一緒に支えてくれた中学3年生は大きな存在でした。

世界的に大きな影響を及ぼしているコロナウィルスの影響で、例年開催して頂いている心の里親会・激励の集いが中止となり、卒業式も規模を縮小、時間の短縮しての開催となりました。最後は盛大に...との思いも、残念ながら叶いませんでしたが、大きな変化の中で苦楽を共に過ごしてきた中学3年生が、人生の中で大沼学園での経験を思い出し、思い出話として語り合える日がくる事を楽しみにしています。

最後に、令和元年度の湖畔も最終号となりました。湖畔を通し大沼学園は、様々な方々に支えられていると実感した1年でした。次年度以降も、各関係機関の皆様方、大沼学園に多大なる応援をいただいている皆様方、地域の皆様方、保護者の皆様方に、今後ともご指導、応援の程よろしくお願いたします。





# 学 園 の 動 向

令和元年度【11月～3月】

## 11月

- 1日 札幌市児相相談一課中野直美相談三係長、森谷耕平児童福祉司、北村幸平児童福祉司、大森将司児童福祉司、林祐輔児童心理司経過診のため来園
- 6日 渡島総合振興局佐々木徹局長、同保健環境部鏡法裕くらし・子育て担当部長、同齊藤渉社会福祉課長、同社会福祉課地域福祉係宮本優奈主事視察のため来園  
道教育庁渡島教育局西田浩人義務教育指導監視察のため来園
- 7日 学園祭総練習
- 8日 今季初雪駒ヶ岳初冠雪
- 9日 学園祭
- 11日 振替休校 新採用職員研修（奥田福祉指導員、札幌市、～15日）
- 12日 旭川児相埴志穂児童福祉司、鈴木大介児童福祉司児童移送のため来園 帯広児相石川貴之子ども支援課長、六本木清文児童福祉司、入江優衣判定員児童移送のため来園
- 13日 運営会議 学力テスト（中3）
- 15日 太鼓クラブ大沼小講演
- 19日 自立支援課長出張（道児相相談所児童福祉司任用後研修講師、札幌市、～20日）
- 24日 佐藤稔氏、葛西由紀子氏、相野禮子氏、池上けい子氏、小笠原道子氏見学のため来園（※ごきょうだいで、亡御尊父佐藤梅三郎氏は昭和20年代から50年頃に調理員として大沼学院に勤務。ご家族で施設内に居住していた）
- 28日 期末テスト（中学生、～29日） 小学生宿泊研修（函館市内、～29日）  
（11月：入所2名／退所0名）  
\*\*\*\*\*



## 12月

- 5日 東北・北海道地区児童自立支援施設協議会職員研修会（森町グリーンピア大沼、当園除いて8名参加、6日は当園の施設見学実施）
- 9日 授業参観日 札幌市児相との連絡協議会 森岡祥広相談判定二課相談三係長ほか6名出席のため来園 岩見沢児相杉本敦子ども支援課長調査のため来園
- 11日 各寮の版画カレンダー完成
- 13日 運営会議  
札幌市児相川上彩児童福祉司、石山博基児童心理司児童移送のため来園 札幌家庭裁判所池田純家庭裁判所調査官
- 16日 視察のため来園
- 17日 内科検診  
避難訓練 室蘭児相五十嵐弘妃児童福祉司、新里徹判定援助係長調査のため来園 向陽学院橋田亮自立指導係長、滝川正和福祉専門員視察研修のため来園
- 18日（～19日）
- 19日 支援会議 医診
- 20日 小学生クリスマス会  
ケータイスマホ教室 函館児相椎野
- 22日 秀基児童福祉司児童移送のため来園  
旭川児相埴志穂児童福祉司調査のため来園（～23日）
- 23日 め来園（～23日）
- 24日 もちつき
- 25日 本館大掃除  
終業式 百人一首大会オリエンテー
- 26日 ション
- 27日 冬期一時帰省開始日  
仕事納め 残留児童行事（スケートは天候不良のため中止、スポーツレク、外
- 30日 食事）
- 31日 残留児童行事（外食事、入浴）  
残留児童行事（ボウリング、入浴）  
（12月：入所1名／退所1名）  
\*\*\*\*\*



1月

- 3日 残留児童行事（スキーは積雪不足のため中止、スポーツレク）
- 5日 残留児童行事（映画） 函館児相椎野秀基児童福祉司児童移送のため来園
- 6日 残留児童行事（スキー）
- 7日 冬期一時帰省終了日 全児童無事
- 13日 園外活動（芝蘭寮、入浴、森町ちゃぷりん館）
- 15日 給食会議
- 16日 百人一首大会（個人戦）
- 17日 園長出張（北海道児童施設協議会、札幌市、～18日）
- 19日 理髪
- 20日 始業式 運営会議 内科検診 百人一首大会（団体戦）
- 22日 期末テスト（中3） 職員会議
- 24日 スキー学習（森町グリーンピア大沼）
- 30日 支援会議 スキー学習は天候悪のため中止

（1月：入所0名／退所0名）

\*\*\*\*\*



2月

- 3日 函館・大沼雪と氷の祭典雪像制作作業（大沼公園、～7日）
- 9日 函館・大沼雪と氷の祭典見学（大沼公園）
- 10日 園外活動（晩翠寮、入浴、大沼プリンスホテル）
- 11日 園外活動（芝蘭寮、入浴、大沼プリンスホテル）
- 14日 スキー学習（函館七飯スノーパーク） 函館児相椎野秀基児童福祉司調査のため来園 園外活動（蛍雪寮、入浴、大沼プリンスホテル）
- 17日 給食会議
- 18日 性の懇話会 鈴木直道北海道知事視察のため来園 児童から知事に視察記念ボール贈呈
- 19日 園長出張（全国児童自立支援施設協議会役員会、新宿区、～20日） 職員会議
- 26日 支援会議
- 27日 分校休校 新型コロナウイルス流行対策により七飯町内の全小中学校が休校（3月8日まで）

（2月：入所0名／退所1名）

\*\*\*\*\*





